

流水の正常な機能を維持するため必要な流量の設定【上流部】

阿賀野川水系

- 広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の維持に努める
- 動植物の生息地又は生育地の状況や流水の清潔の保持、塩害など9項目の検討により維持流量を設定し、水利流量・流入量をあわせた結果、正常流量を宮古地点においてかんがい期概ね3m³/s、非かんがい期概ね7m³/sとする

正常流量の基準点

基準地点は、それぞれ以下の点を勘案し、宮古地点とする。

- ◆ 宮古
 - 大規模取水後に位置し、流量管理・監視が行いやすい地点
 - 過去の水文資料が十分に備わっている地点

正常流量設定の経緯

上流部

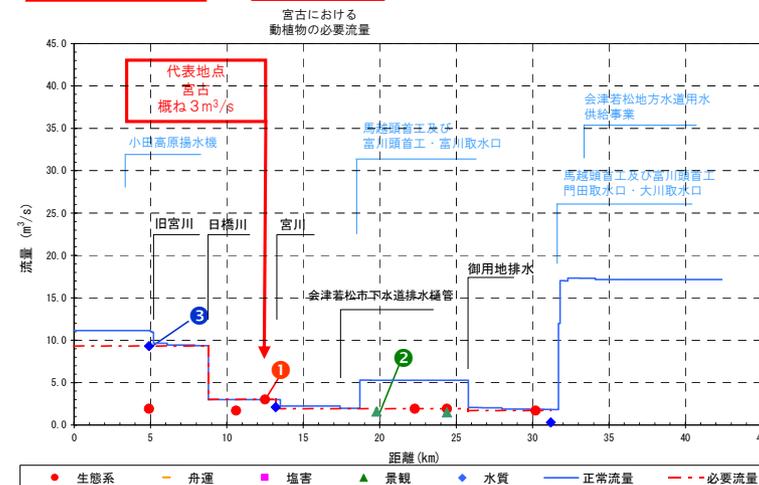
- 昭和53年の大川ダム基本計画変更では、維持流量を検討した結果、1/10湯水流量（宮古地点2.5m³/s）を確保することとした
- 大川ダム建設時、漁協など地元関係者の合意を得た上で維持流量（宮古地点2.5m³/s）を設定
- 昭和60年の工事实施基本計画改定にあたり、宮古で概ね3m³/sとして正常流量を設定

正常流量の設定

基準点の正常流量は次のように設定

阿賀野川（上流部） ●かんがい期(概ね5～9月)：概ね3 m³/s

$$\begin{matrix} \text{宮古} \\ \text{概ね}3.0\text{m}^3/\text{s} \end{matrix} = \begin{matrix} \text{維持流量} \\ 3.0\text{m}^3/\text{s} \end{matrix}$$



※阿賀川の過去18年間（昭和63年～平成17年）の宮古地点における、10年に1回程度の規模の湯水流量は2.69m³/sである

必要流量の検討



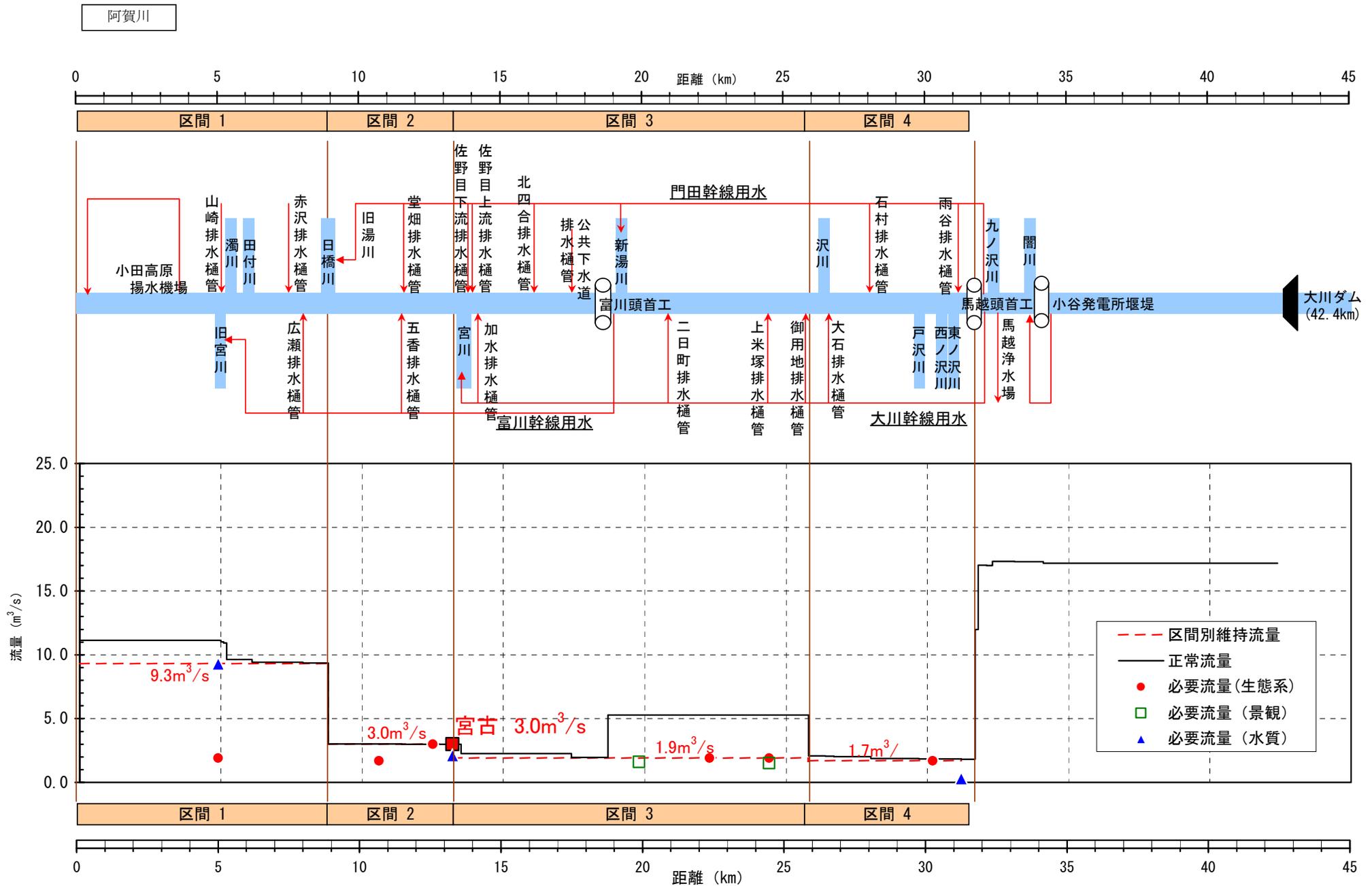


図 6.1 (1) 阿賀野川水系 正常流量縦断図(かんがい期)

阿賀川

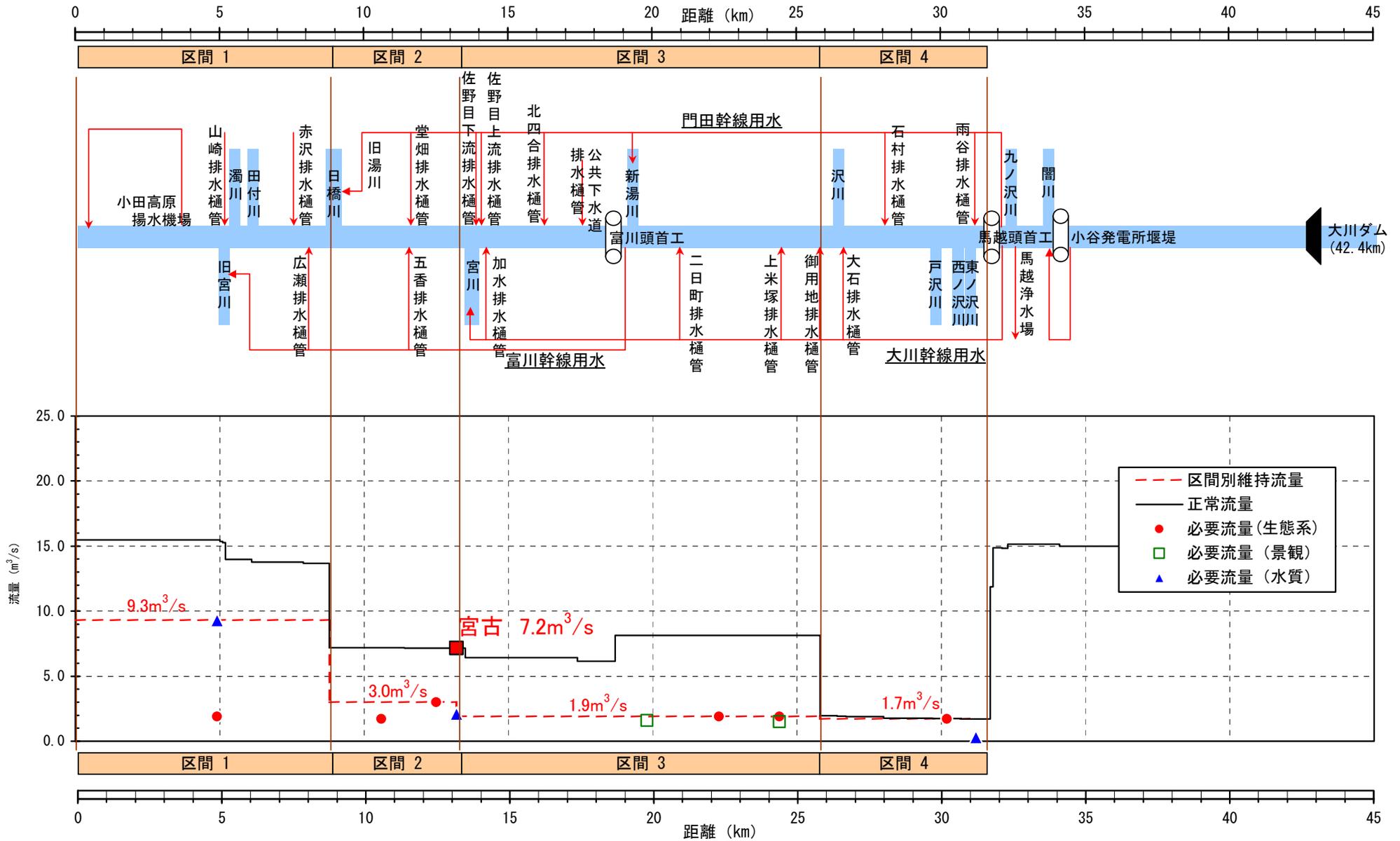


図 6.1(2) 阿賀野川水系 正常流量縦断図(非かんがい期)